



『バリウムは もっとおいしくなりませんか？』

確かに。せめてバリウムがおいしかったら、検査の苦痛も軽減するかもしれませんね。ですが、私たちの胃は「お！おいしいものが入ってきたぞ～」となると、胃液を出し、胃を動かして消化の準備を始めるのです。

普段はぺったんこの状態にある胃を発泡剤で膨らませ、胃の粘膜にバリウムをぴったりくっつけることで、粘膜がきれいに写ったレントゲン写真をとることができます。胃液が出たり、胃が活発に動いていると、そのような写真をとることができません。

がんを探す医師がどんなに優秀でも、それは良い写真があってこそ。がんを見逃さないためには、少しでも良い写真をとること、そのためには、バリウムをおいしく…というわけにはいかないのです。

とはいえ現在のバリウムは、飲む量もヤクルト2本分と少量です。胃がんは罹る人の多いがんです。40歳を過ぎたら年に1回は胃がん検診を受けましょう。

